伊賀市社協だより

あいしあおう

やま がまち まがはら おやま おやまだ えの

令和7年10月1日発行

No.235 10月号

今年もはじまります！
じぶんのまちを良くする、赤い羽根共同募金運動

支える人を支える募金

地域の子どもの
居場所を
支える人

地域の
防災対策を
支える人

日々の生活に
困っている方を
支える人

いきいきと暮らし
続けられる地域を
支える人

スマホからも、
募金できます♪

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

夏休みふくし体験教室

体験レポート

■主催／伊賀市社会福祉協議会
■共催／伊賀市社会福祉法人連絡会

小中学生および一般の方４３人（延べ参加 61 人）のみなさんが、市内 14 箇所の福祉施設で、レクリエーション活動やふれあい交流をしました。体験の一コマをご紹介します。

みどり保育園

9:00	子どもと遊ぶ
11:30	給食準備手伝い
12:00	昼食
13:00	午睡準備手伝い
14:30	起床、おやつ準備
15:00	おやつ
15:30	帰りの用意の手伝い、掃除
16:00	終了

今夏、保育士という仕事に関心を持たれた 5 名の方が福祉体験をしてくださいました。皆さん、子どもと視線を合わせて会話をし、一緒に遊んでくれたので、子どもたちも安心して一緒に過ごせたようです。

井上友太（いのうえゆうた）さん（中 3）は､「初めは緊張していたけれど、子どもたちが話しかけてくれたり、遊びに誘ってもらったりしたので、すぐに不安が消えました」と話してくれました。

※写真中央／井野夏希さん（中 1）

小規模多機能型居宅介護 しらふじの里

9:00	お茶出し・談話
10:00	制作・レクリエーション
11:00	体操
12:00	昼食
13:00	片づけ
14:00	体操・レクリエーション
15:00	おやつ
15:30	終了

高齢者との接し方やふれあい方を学びたいとの目的で初めて参加された小学 2〜5 年生の５人のみなさん。はじめは恥ずかしそうでしたが、少人数の環境で利用者様と自然に接することができるようになりました。お手玉を教わったり、ゲームを通して思いやりの大切さを感じたそうです。

夏祭りでは準備やゲームをお手伝いし、利用者様も喜ばれていました。複数回体験されてすっかり馴染んでいたので、お別れはみんな寂しい気分でしたが、来年の約束をして楽しみが一つ増えました。

太陽作業所ひらそる（生活介護）

9:30　オリエンテーション
10:00　創作活動（靴下でぬいぐるみ作り）
　　　　　　（タイルでリメイク鉢作り）
12:00　昼食
13:00　レクリエーション（ゲーム遊び）
14:30　振り返り
15:00　終礼参加

川口実緒さん（小５）と山本彩羽さん（小３）は福祉施設に興味をもち、初めて体験されましたが、どんなところか想像がつかなかったため、初めは怖かったそうです。ぬいぐるみ作りや鉢作りを利用者様に教えてもらったり、ゲームを一緒に楽しむうちに笑顔も見られ、「楽しかった。来年は友だちを誘って来たい。」と話してくれました。利用者様も「孫と一緒に遊んでいるようで楽しかった。」と喜んでおられました。

ふっくりあホイスコーレ

10:00　オリエンテーション
10:30　作業体験・農事体験
11:50　給食準備
12:10　昼食
13:00　交流（ボッチャ）・作業体験
13:45　振り返り
14:00　終了

7/24 ～ 8/20 の間の 11 日を使って、小学校 1 ～ 6 年生、延べ 25 人の方が、体験にきてくれました。ご兄弟・ご親戚やお友達同士での参加が多く、賑やかな毎日でした。人気だったのがボッチャ交流！すぐに利用者のみんなとも打ち解け、笑顔がみられました。

作業や勉強など、働く事に向けたくさんの取り組みがありますが、どの活動にも興味津々、意欲的・積極的な様子から、利用者のみんなも刺激と癒しをもらいました。

新しい出会いや学び

夏休みふくし体験教室を申し込んだきっかけいろいろ

もっと知りたい！

・家にもおばあちゃんがいるから接し方を学びたい
・子どもが好きで、誰かの為に何かしたかったから
・働く意味や意義を学んでほしい。
・本で高齢者や障がい者の方を介助する仕事のことを読んだので、興味があった
・昨年も行かせてもらって楽しかったから
・お年寄りをお世話する仕事を知りたい
・高齢者でもお手伝い出来ることがあればと思って一度見学兼ねて体験したい
・ばあばの仕事はどんな仕事か知りたい
・看護師になりたいので、老人ホームなどの施設の雰囲気を知りたい

来年度も、たくさんのみなさんのご参加をお待ちしています！

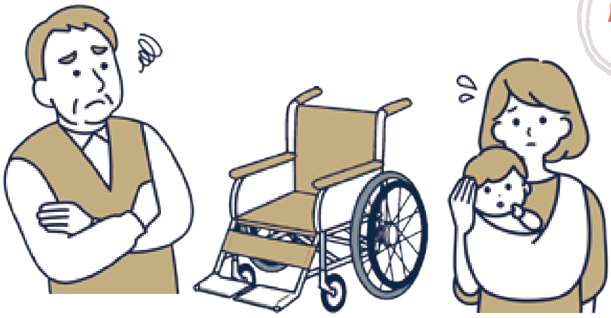
住まいの不安は、誰にでも起こり得る身近な課題です

「年齢を理由に入居を断られた」
「障がいがあって受け入れてもらえない」―

こうした“住まいに関する困りごと”は、特別な人だけではなく、誰にでも起こり得ることです。

連帯保証人が
みつからない

足腰が弱って
階段の登り降りが
つらくなってきた

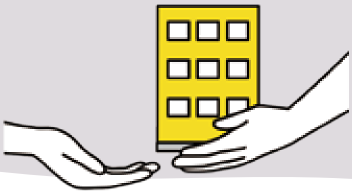


家賃の支払いが
厳しくなってきたので
引っ越したい

失業して
今の住まいから
出なくてはならない

住まい探しでは、借りる側・貸す側
双方にさまざまな課題があります

「借りたい人」の課題
保証人がいない
緊急連絡先がない
家賃が予算に合わないなど



「大家さん」の課題
家賃滞納の不安
残置物処理の負担
孤独死などのリスクへの心配

双方の課題を解決して安心できるしくみづくり
伊賀市に「居住支援協議会」が誕生！

伊賀市では、住まいの確保が難しい「住宅確保要配慮者」を支援するため、令和7年8月に県内初となる「居住支援協議会」を設立しました。この協議会は、不動産業者や福祉関係者などが協力して運営し、住宅を「借りたい人」と「貸したい人」の双方が安心できる仕組みづくりを進めます。

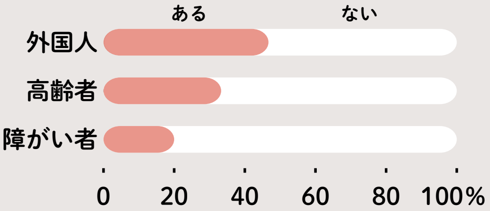
住宅確保要配慮者とは？
▶高齢者、障がい者、ひとり親世帯、外国人住民、生活困窮などの理由で、住まい探しが難しい方

言葉・生活・トラブル不安などが壁に ―家主が入居を拒む理由とは―

伊賀市で行われた家主の意識調査では、入居の拒否について、外国人に対しては46.7%、高齢者は33.3%、障がい者は20.0%、拒否感があるという結果がありました。

家主が入居を拒否する理由については、「言葉が通じないと思うから」「生活・考え方に相違があるから」などがあげられました。

賃貸住宅の入居拒否



（2025.3 伊賀市
「宅地建物取引に関する人権問題の実態調査」）

住まいのこと ご相談ください

住まいは、単なる「居場所」ではなく、生活再建や福祉、就労、教育、健康の基盤となるものです。

伊賀市社協は、三重県より居住支援法人の指定を受け、高齢者や障がい者、ひとり親世帯、外国籍の方、生活に困窮されている方などで住まい探しでお困りの方の相談に応じ、民間賃貸住宅への入居をお手伝いしています。

相談・情報提供

●住まい探しのアドバイス
さまざまな事情を抱える方々が、それぞれのニーズに合った賃貸住宅を見つけられるよう相談にのります。

●物件情報の提供
自治体や不動産会社と連携し、住宅確保要配慮者の入居を拒まない物件の情報を提供します。

●契約手続きの支援
賃貸契約の書類作成や入居に必要な手続きについて助言やサポートを行います。

生活支援

●見守り
入居後も、関係機関と連携し、必要に応じて定期的な訪問や電話などで安否確認を行う、「見守り」サポートを行います。

●他機関への連携
相談内容によっては、福祉サービスや医療機関など、他の専門機関につなぐ役割も担います。

その他

単に物件を紹介するだけでなく、住まい探しの初期段階から入居後の生活までご相談に応じます

住まいは、家族が暮らしを営み、子どもを育て、人とつながり、安心して生活していくための大切な場所です。私たちは、みなさんの悩みごとの解決に向け て、一緒に考えていきます。

くらし支援課
住まい相談支援員
一見俊介

住まいに関するご相談は・・・

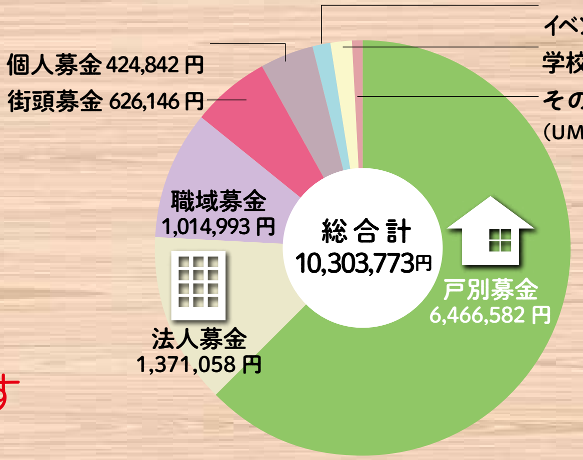
伊賀市社協 くらしサポートセンターおあいこ
伊賀市平野山之下 380-5 伊賀市総合福祉会館 1 階
0595-22-0084（平日 8:30～17:15）
sumai@hanzou.or.jp

広告

三重県共同募金会 伊賀市共同募金委員会からのお知らせ

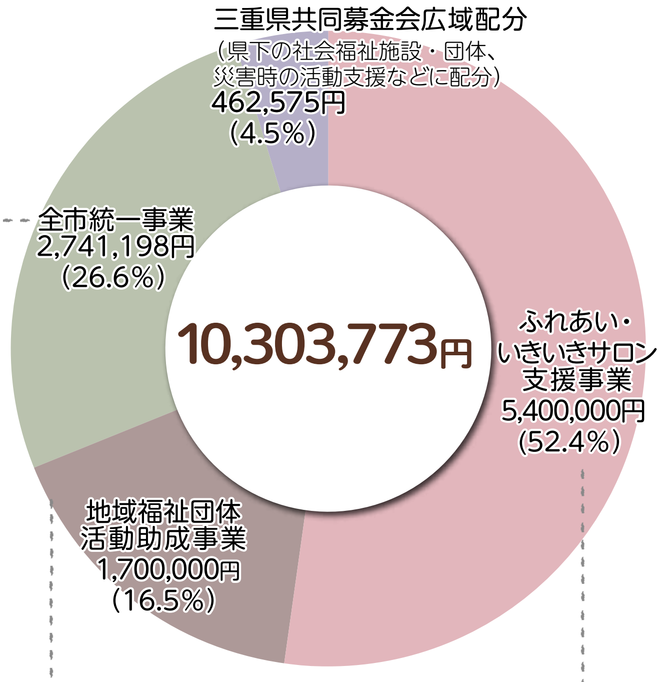
令和6年度
伊賀市共同募金委員会
実績額

10,303,773円



みなさまのご協力
ありがとうございます

令和7年度 共同募金配分金助成事業予算【三重県共同募金会 伊賀市共同募金委員会配分】

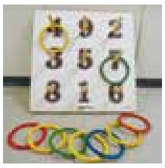


生活困窮・子どもの貧困対策事業

緊急かつ一時的に困窮状況となった低所得の方に、食料等の現物を提供して自立生活を支援します。また、お米パントリーなどを通じた子育て世帯等への食料支援を行います。

貸出備品等購入事業

地域の交流事業やイベント等で使う備品を購入・修理します。



災害見舞金・災害救援支援金給付事業

天災人災を問わない局地的災害により全焼・全壊または半焼・半壊の被災者への見舞金や、地域住民による炊き出し等の支援活動への支援金を給付します。

広報啓発事業

社協広報誌の発行や共同募金配分事業の広報啓発を行います。

地域福祉団体活動助成事業

地域福祉に取り組む当事者組織、ボランティア市民活動団体、地域団体等に対し、資機材購入や研修・調査活動等への助成を行います。

上野手をつなぐ育成会（療育キャンプ）

ふれあい・いきいきサロン支援事業

市内約240箇所で開催されている、身近な地域で、高齢者や障がい者、子育て中の親、ボランティア等が協働で企画運営をし、孤立予防や介護予防を目指す仲間作りの場を支援します。

朝日ケ丘町 朝みどり会（七夕飾り作り）

ひとりひとりのやさしい気持ちが、まちの福祉を支えています。

FOOD DRIVE

「もったいない」を「ありがとう」に･･･

ご家庭などで眠っている食糧のご寄付を募ります!!

生活にお困りの方への食糧支援に活用させていただきます。

日時
12月1日(月)～5日(金)
8:30～17:00

場所
伊賀市社協 各地域センター
(直接持ちこみをお願いします)

募集 ●常温保存ができる食品(賞味期限が1ヶ月以上あり、未開封のもの)
例)米・レトルト食品(ご飯･おかず等)・缶詰・カップ麺・パスタ・飲料・お菓子など
※賞味期限が明記されていない食品、お酒などの嗜好品は受付できません。(野菜類は要相談)

●未開封の子ども用紙おむつ、消耗品　例)ティッシュ、トイレットペーパーなど

●時間内の持ち込みが難しい場合は、ご相談ください。

お問い合わせ先 伊賀市社会福祉協議会

上野地域センター	☎0595(21)1112	いがまち地域センター	☎0595(45)1012
島ヶ原地域センター	☎0595(59)3132	阿山地域センター	☎0595(43)1854
大山田地域センター	☎0595(47)0780	青山地域センター	☎0595(52)2999

潜在保育士等就労・職場復帰支援研修(web)

保育士または放課後児童支援員の資格をお持ちで、現在保育現場で働いていない、働きたいと考えている方を対象に、講座を開催します。

各講座、2時間程度の動画配信によるweb研修で、1講座でも全講座でも受講したい講座に申込でき、配信期間内は何度でも視聴できます。

【配信期間】
令和7年9月25日(木)～
令和8年2月28日(土)

【申込期日】令和8年2月13日(金)

【対象者】保育士または放課後児童支援員の資格を持ち、現在保育現場で働いておらず復職をお考えの方

【講座】
①子どもの思いによりそう保育
②保育士におけるコミュニケーション
③保育記録の取り方
④これからの保育に求められること
⑤配慮が必要な子どもと保護者を支える

【申込方法】
申込フォームから申込▼

【問合せ先】
三重県社会福祉協議会／三重県保育士・保育所支援センター
☎059-227-5160

広告募集中!

数字で見る伊賀市の福祉　令和7年8月末現在（前月比）

伊賀市の人口	83,666人（－78人）		
伊賀市の世帯数	40,543世帯（＋1世帯）		
65歳以上高齢者数	28,710人（－11人）	高齢化率	34.3％（±0％）
75歳以上高齢者数	16,881人（＋11人）	後期高齢化率	20.2％（＋0.1％）
介護保険認定者数	6,212人（＋12人）		

あなたのまちの ふれあい･いきいきサロン No.221

高尾いきいきサロンうぐいすの杜
メンバー数／10人
開催場所／古田集議所 集いの館うぐいすの杜
開催頻度／月１～２回

「高尾いきいきサロンうぐいすの杜」では、古田地区住民全員を対象とした“季節のサロン”と、主に高齢者を対象とした“小サロン”の二つの形態で進めています。

“季節のサロン”は有志によるお花見会がきっかけで20年程前に始まり、地区外に住む子や孫たちの参加もありました。“小サロン”は、集いの館うぐいすの杜の完成を機に発足。脳トレや手芸、歌、体操、外出など、参加者の興味や関心、希望をもとに企画運営しています。時にはよもやま話に花が咲き、予定を変更して進めることもあります。現在は月２回の開催を目標にしていますが、参加者の体調や天候に合わせて、中止や延期など柔軟に対応しています。

近場へ出かける“ご近所のスポット巡り”は人気で、今年はあじさい畑を見学しました。毎年年末に、新春に向けて挑戦している“十二支のちぎり絵”もあと少しで完成です。「集まる▷つながる▷ほっとする▷元気が出る▷更につながる」を活動理念に、今後も参加者全員で作る安らぎの居場所となるよう、活動を続けます。

我ら！ふくしレンジャー No.228

伏見（ふしみ） 洋子（ようこ）さん（上野在住）

●活動を始めたきっかけ

社協が開催する子ども食堂の研修に参加したことがきっかけです。その研修の中でさまざまなボランティア活動が紹介されており、その中で校内カフェの案内がありました。食を通じて子どもたちと関わるという内容に惹かれ、参加してみたいと思いました。

●活動内容

食べ物を介して自然な会話を生み出し、ちょっとしたやりとりを通じて子どもたちと心を通わせるように努め、子どもたちが将来社会に出た時にさまざまな人と関わる力を身に付けてほしいと願っています。

年齢や性別が違う人と話すことは貴重な経験になると思い、「こういう大人もいるんだ」と感じてもらえる存在を目指しています。

●今後の抱負

人と関わるうえで最も大切にしているのは、「ぬくもり」で、言葉や表情、ちょっとした仕草の中に温かさを込めたり、会話の中でほんの少しでもスキンシップが取れるように常に意識しています。子どもたちが「今日はちょっと話してみようかな」と思えるような、親しみやすくて安心できる距離感を大切にしながら、これからも活動を続けていきたいです。

編集後記

共同募金運動は、第二次世界大戦後の１９４７年（昭和22年）に、困ったときはお互いさまの気持ちで「国民たすけあい運動」として始まりました。

現在では、「じぶんの町を良くするしくみ」として、さまざまな地域福祉活動を支援しています。

編集・発行　伊賀市社会福祉協議会

本部		〒518-0829　平野山之下380番地５ 伊賀市総合福祉会館１階 ☎0595(21)5866 ／ FAX0595(26)0002
地域センター	上野	〒518-0829　平野山之下380番地５ 伊賀市総合福祉会館１階 ☎0595(21)1112 ／ FAX0595(21)8123
	いがまち	〒519-1413　愛田513番地 いがまち保健福祉センター「愛の里」 ☎0595(45)1012 ／ FAX0595(45)1050
	島ヶ原	〒519-1711　島ヶ原4743番地 島ヶ原福祉センター「清流」 ☎0595(59)3132 ／ FAX0595(59)3145
	阿山	〒518-1313　馬場1128番地の１ 阿山保健福祉センター ☎0595(43)1854 ／ FAX0595(43)1577
	大山田	〒518-1422　平田656番地の１ 大山田福祉センター ☎0595(47)0780 ／ FAX0595(46)1165
	青山	〒518-0226　阿保1988の１番地 青山福祉センター ☎0595(52)2999 ／ FAX0595(52)3555

●この広報誌は、社協会費、共同募金配分金、有料広告等により発行しております。